

事前意見 三輪委員

春日苑の地域課題の「地域資源の柔軟な利用」については、現実問題として、医療的ケア児等のショートステイ（短期入所）やレスパイト入院が、今までのように利用できず困っており、また**我慢している親たちがいる**ため、**介護保険施設も利用できる**ようになれば、少しは安心できると思います。

ポイント ★医療的ケア児等が利用できるショートステイについて

（三輪委員現状、足立委員）

★レスパイト（親の休息等）入院の現状は（三浦委員）

→**医療的ケア児等支援部会へ**

★親の急病→地域生活支援拠点の緊急時支援（かすがい）

共生型サービスの概要

- 介護保険法の訪問介護・通所介護・（介護予防）短期入所生活介護については、障害者総合支援法若しくは児童福祉法の指定を受けている事業所からの申請があった場合、「共生型サービス」として指定が可能。

共生型サービスを活用することのメリット

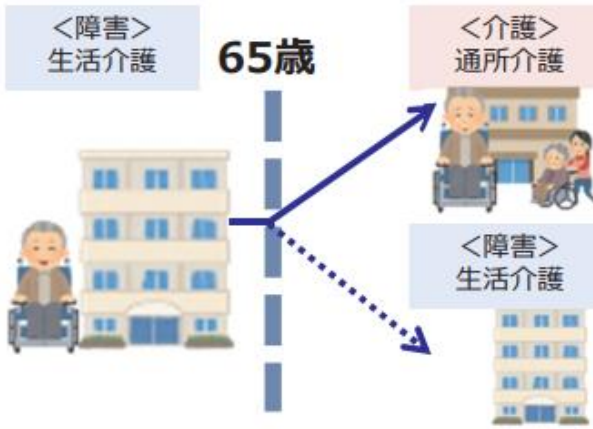
利用者

- ① 障害者が65歳以上になっても、従来から障害福祉で利用してきたサービスの継続利用が可能となる。
- ② 高齢者だけでなく、障害児・者など多様な利用者が共に暮らし支え合うことで、お互いの暮らしが豊かになる。

①

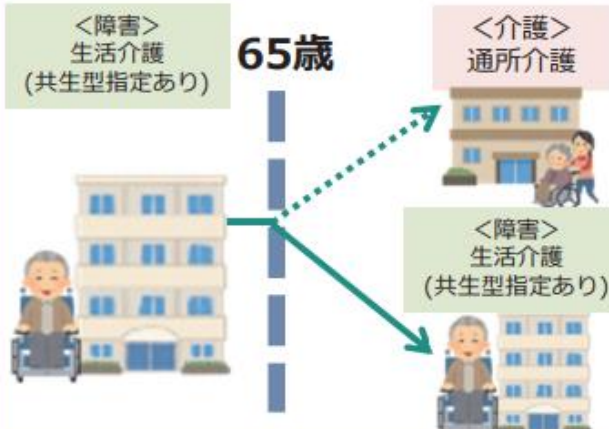
共生型サービス開始前

65歳を境に、なじみのある事業所から介護サービス事業所へ移行する可能性。



共生型サービス開始後

なじみのある事業所が共生型サービスになることで、65歳以降も引続き通所可。



②

【地域の実践例】
「富山型デイサービス」



事業所

障害福祉事業所、介護保険事業所それぞれの基準を満たす必要なし。

※ 障害福祉事業所の指定を受けた事業所であれば、基本的に共生型サービスの指定を受けることができるよう、特例基準を設定。

地域

地域の実情にあわせて、限られた福祉人材を有効に活用することが可能。

介護保険と障害福祉の両制度の基準や高齢者と障害児・者の支援内容の違いを踏まえ、サービスの質の確保に十分留意しつつ、共生型サービスの指定を推進

事前質問 牧瀬委員

地域課題の【安否確認の必要な独居者の見守りについて】、**民間住宅での見守り支援**として具体的にどのようなものがあればよいか、考えられていることがあれば教えて下さい。

ポイント★地域とのつながりが希薄

(事務局：基幹相談支援センターしゃきょう林氏)

★緊急通報システム (事務局)

★認定症高齢者等見守り支援事業 (事務局)

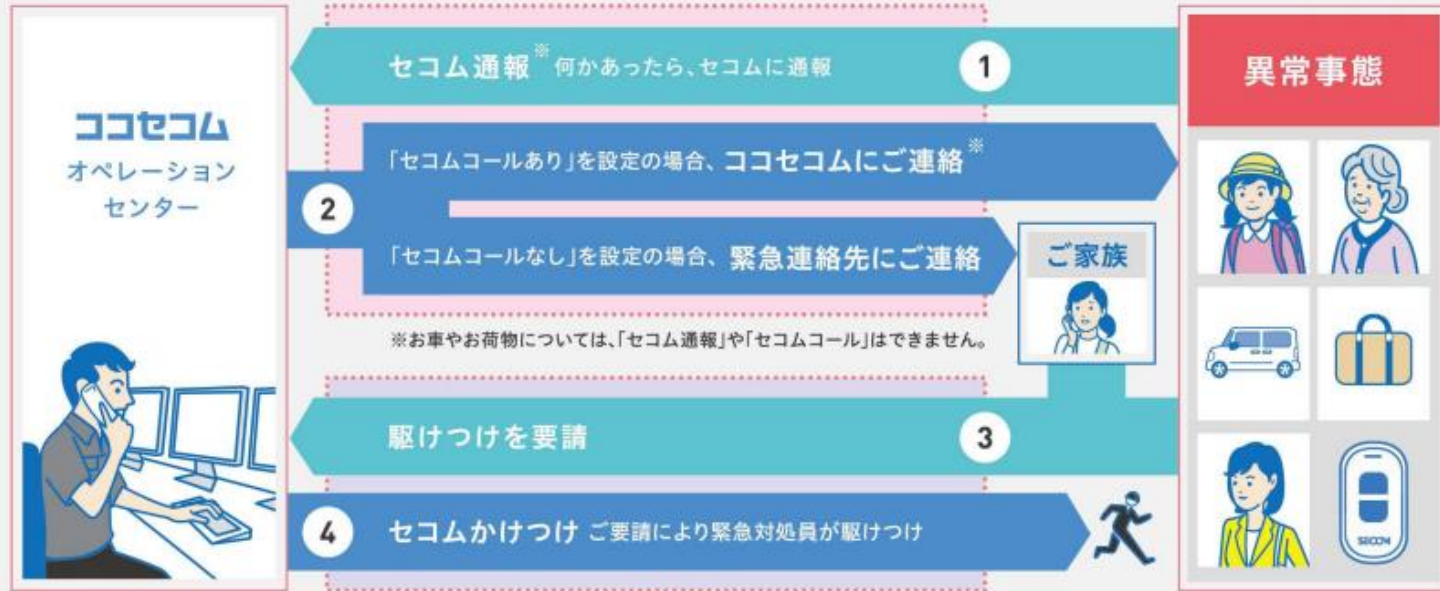
★UR見守り高齢者世帯等の見守り等住生活環境整備に係わるサービス

緊急通報システムの機器（利用者宅内設備）



ご本人とご家族の不安に、的確に対処します。

(「セコム通報」から「セコムかけつけ」までの仕組み)



不安になったら、
セコムに通報できます。

ココセコム
サービス

セコム通報

危険や不安を感じたら、ココセコムの通報ボタンを押すだけの簡単な操作で、すぐにセコムに通報。「何かあったときは、通報できる」から、ご家族の安心感がちがいます。

通報



要請



※お申し込みにより、「セコム通報あり」「セコム通報なし」を選択できます。

警察との三者通話もできます
状況に応じて、ご家族との電話
をそのまま警察にもおつなぎ
します。



見守りサービス

大切なあなたを ご家族を そっと・ゆるやかに見守る
あんしん・かんたんサービス

見守りサービスとは…

お住まいの室内に設置したセンサーによりお客様の動きが確認できないとき、コールセンター (UR都市機構パートナー事業者:立山科学工業株) からお客様に電話連絡をし、必要に応じて緊急連絡先へご連絡するサービスです。

高齢者の方や
離れて暮らすご家族の
不安を解消！

見守りサービスの流れ



UR賃貸にお住まいの方限定！！

センサー機器

安否センサー・外出センサーがお客様の活動を見守ります。外出についても自動で判定します。

利用
料金

月額 **990**円(税込)

初期費用……………7,249円(税込)
約3年に1回の電池交換費用(センサー3台分)…2,640円(税込)

施策へとつなげていくには

地域生活支援拠点のコーディネータにつなぎ、いざという場合どのように支援するのかを決めておく。

「SOS」、「緊急時」が発生した場合に、誰がどのように動き、どの資源につなぐのか。→進んでいない（引き続き検討）

障がい福祉分野も、障がい者、世帯が民間業者のサービスを申し込んだ場合に補助が出る。地域生活支援事業のなかに組み込むなど。各世帯の状況、数などを行政に把握していただく。

事前意見 牧瀬委員

まあるの地域課題【医療との連携および繋がる仕組み作り】において具体的にどのような仕組み・地域作りがあればよいか考えられていることがあれば教えてください。

ポイント★周知（広報、支援センターパンフレットをクリニックへ配布）継続性。医師、看護師等への周知
(竹内委員)

★「在宅医療・介護連携推進事業」
「在宅医療・介護関係 情報共有システム
かすがいねっと連絡帳」（事務局、地域包括三浦委員）

医療と介護の両方を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるために、在宅医療と介護が一体的に提供されるよう、地域の医療機関と介護事業者などの関係者との協働・連携を推進しています。

在宅医療・介護連携推進事業とは

事業内容

1. 地域の医療・介護の資源把握
2. 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
3. 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進
4. 医療・介護関係者の情報共有の支援
5. 在宅医療・介護連携に関する相談支援
6. 医療・介護関係者の研修
7. 地域住民への普及啓発

平成26年の介護保険法の改正から
平成27年度より
市町が行う事業



春日井市在宅医療・介護ネットワーク

かすがいねっと連絡帳

ホーム

かすがいねっと連絡帳とは

ご利用までの流れ

サポート窓口

はじめに

かすがいねっと連絡帳は、医療と介護のサポートが必要な方が安心して住みなれた地域で暮らし続けることができるよう、その方をサポートする様々な分野の専門職が連携するための情報共有システムです。

かすがいねっと連絡帳を活用し、患者の情報だけでなく、多職種の皆さんで患者の思いを共有できるシステムにしていきましょう。



書のみち春日井「道風くん」

ネットワークに新規参加する手順

ネットワークへの同意手順
同意書取得手順についてはこちらをご覧ください

リンク集

在宅医療・介護
地域資源
マップ



電子@連絡帳

利用開始

利用には事前の利用者登録と利用証明書のインストールが必要です。施設登録が

つながる・きづく・頼ってみたいしくみ

自助（不調からきづき、医療機関を受診する、友達や親に相談する）

共助（会社の方や地域の方が気づく）

公助（適切な医療機関への通院、相談支援センター等への相談）

重層的支援体制のなかで引き続き検討する課題

医療との連携で横断的包括的になるかどうか。

地域生活→プライバシー、個人情報の問題

どのように「公」へつながるか

「公」が「公」へどのようにつなげるか

「明日は我が身」として周りがどのようにかかわるか

事前質問

質問された委員	内容（回答者）
浅野委員	「障害児の新たな移行調整の枠組みの構築にかかる手引き」を取りまとめていることについて、概要を教えてください。（事務局）
沢田委員	特別支援学校高等部に在籍し、障害児入所施設に入所している生徒の卒業後の居所の決定については、進路先の決定とも大きく関係しており、 早い時期 から取り組んでいかなければと感じています。（沢田委員からの感想）
服部委員	そのような卒業後の居所が決まっていない児童はどのくらいいるのでしょうか。また、報告に挙げられた児童は現在も状況は変わっていないのでしょうか。
坂田委員	計画的な移行調整が必要とあったが、具体的な方策を教えてください。（事例を各センターから紹介）

かすがい事例 1

どのような経過で措置等になっているのか

17歳、強度行動障がいの特性が強い。父親が病気で倒れ、母親一人では養育不可能であり、保護。保護後、グループホームへ契約入居。入居後、特性上生活環境がミスマッチであるため、支援ができない状態になる。早急な居所の切り替えが必要。

現在の主体機関は？どのような関係機関がかかわっているのか

児童相談所の対象年齢から外れることから、主体は障がい福祉課。
かすがい、放課後等デイサービス、グループホーム、特別支援学校、希望される入所施設

卒業後ご家庭に戻れない理由

父親は退院したものの、体力的にご両親だけではご家庭で支援することが不可能。

卒業後の行先がスムーズに決まらない理由

「施設入所」と選択肢が狭いため、空床が見つからない。状況が切迫していても、実際不適応だが居所はある（グループホーム）ため、入所施設へエントリーしても優先順位が低くなってしまう。

かすがい事例 2

どのような経過で措置等になっているのか

小学校高学年時に、身体的虐待とネグレクトから措置。

現在の主体機関は？どのような関係機関がかかわっているのか

児童相談所が主体。特別支援学校、児童施設（措置先）、かすがい

卒業後ご家庭に戻れない理由

措置された経緯から、ご家庭には戻れない。

卒業後の行先が決まりつつある理由

現在高等部3年生。本決まりではないがグループホームが仮押さえされている。本人に不適合行動がないこと、グループホームの資源が充足していたこと。早い段階で児童相談所が地域の相談員を関係機関として参加させ検討していたことから、移行がスムーズになっている。好事例とあって良い。

しゃきょう事例3

どのような経過で措置等になっているのか

特別支援学校高等部3年生女性、療育手帳A判定。父子家庭で養育困難なため児童相談所へ相談。児童相談所の判断で第3号措置。

現在の主体機関は？どのような関係機関がかかわっているのか

児童相談所が主体。障害児入所施設、特別支援学校、グループホーム、基幹相談支援センターしゃきょう

卒業後ご家庭に戻れない理由

措置の理由から卒業後もご家庭には戻れない。

卒業後の行先がスムーズに決まらない理由

療育手帳A判定ではあるが、自立できていることもあるなかで、施設入所かグループホームかの選択をするなかで検討に時間がかかった。

グループホームを探すにしても、卒業までに1年以上あるなかで**居所を空けておいてくれる事業所が少ない。**

居所が決まらないと、日中活動先を決めることができず学校との足並みが揃わない。

日中活動先の検討について、学校との意見が食い違うこともある。

あっとわん事例 4

どのような経過で措置等になっているのか

自宅で子どもをみることができないと児童相談所へ相談。措置入所から契約入所へ移行している。

現在の主体機関は？どのような関係機関がかかわっているのか

契約入所となってしまったことで、児童相談所はかかわらない。主体機関が曖昧なままあっとわん。児童入所施設、特別支援学校、医師、施設入所、障がい福祉課

卒業後ご家庭に戻れない理由

兄弟との関係性が悪く、親がとても支援できる状況ではないため、ご家庭には戻れない。

卒業後の行先がスムーズに決まらない理由

施設入所事業所の定員に空きがない。

児童入所施設と**契約**しているため、**施設入所事業所への体験等で送迎することの課題**がある。

あっとわん事例5

どのような経過で措置等になっているのか

保護者の意向により、入所施設、グループホームをあっとわんが探した。現在はグループホームへ入居。しかし、不適応行動から支援が受けられず、次が決まるまでとされている。

現在の主体機関は？どのような関係機関がかかわっているのか

主体は指定障害児相談支援事業所（あっとわん）
保護者が主体になり、短期入所、施設入所支援事業所、グループホームを探している。
特別支援学校、グループホーム、あっとわん、障がい福祉課

卒業後ご家庭に戻れない理由

ご家庭内で本人が保護者を叩くなどの行動があり、保護者が一緒に生活ができないと話している。

卒業後の行先がスムーズに決まらない理由

施設入所支援事業所の定員に空きがない。
グループホームでの支援で**課題が大きいと、断られてしまい、次の居所を探していくしかない。**

児童の人生を考えていくうえでの課題

- 施設入所支援事業所に空きがない。
- 早い段階で移行調整をしても、事業所の運営上、1年以上「空き」を担保しておくことが困難。
- 強度行動障がいなど、障がいが重い方ほど、移行調整が難しい。
- 措置ではなく、契約に切り替えてしまうと、児童相談所が主体とならない。
- 契約後の生活だと、断られてしまう現状がある。
- 移行先ありきのなかに、本人やご家族の人生をどれだけ考えられるか。

今後どのようなことが必要でしょうか。

あつとわんの傾向と所感

不登校、行き渋りについての理由

- ・ 家庭の状況により行き帰りの道中、保護者が同行できない。
- ・ 新型コロナウイルスの影響で保健室登校ができない。
- ・ 保護者の付き添いで週1日通学できていたが、他者との関係性につまづき、不登校に。
- ・ 学校で他児との関わりが難しい。
- ・ 学習面のつまづき。

学校教育側の受け止め、現状（坂田委員より）

地域課題の継続 【インフォーマル支援の充実】

安否確認など制度外で見守ることができるサービスがほしい。

通勤の付き添いができるサービスがない。

一般就労している職場に介助できる人がいない。→利用者等職場介助助成金？

経路取得のための移動支援は認められているがヘルパーが不足している。
通所や通勤のための付き添い者がいたら良い。

保育園、幼稚園の送迎（親が何かしらの原因で送迎できない）。送迎できないことで休むことがある。
通学の付き添い（集団が難しい、親も難しい場合）

高齢者サロンのような、特別支援学校の卒業生が集える場所、余暇の場が地域にほしい。
交流、生涯学習できる場がほしい。

片麻痺のある母が育児。スポット的にご家庭内で手伝ってくれる人がほしい。

障がい児の保護者（付き合いが苦手）が情報交換等できる場があるとよい。

障がいの方で、新型コロナウイルス陽性となった場合の見守りが必要。

新型コロナウイルス陽性となった場合の移送。（タクシーは断られてしまった）

難病をもつ子で病状悪化を防ぐため、常に抱っこが必要。親も疾患があり、抱っこできる人がほしい。
ボランティアセンターにつなげたものの難しかった。

若年性認知症の方が活躍できる場所がほしい（生きがい、活動できる場所を求めている）

インフォーマルな資源の活用について

引き続き、事例を集める。

活用できた事例があれば紹介していく。

困っていることを、幅広く市民に知っていただくこと。周知方法。

協議会を通じて横のつながり、包括的に地域のつながりを求めている。